

平成 24 年度 伊勢湾総合対策協議会・海岸漂着物対策検討会の取組

(1) 三県一市検討会のこれまでの経過

年月日		内容	
1	平成 24 年 1 月 16 日	東海三県一市知事市長会議において、海岸漂着物対策の連携の強化と検討する場の設置について合意	
2	平成 24 年 3 月 11 日	シンポジウム「伊勢湾の海岸漂着ごみを流域のみんなで考える会議」開催（三重県主催、環境省、愛知県、岐阜県、名古屋市後援）	
3	平成 24 年 4 月 24 日	海岸漂着物対策検討会（第 1 回）の開催	準備会（第 1 回） 平成 24 年 3 月 27 日 準備会（第 2 回） 平成 24 年 4 月 17 日
4	平成 24 年 6 月 9 日	現地研修会の開催（26 名）（奈佐の浜現地確認、海岸清掃）	
5	平成 24 年 9 月 8 日	奈佐の浜海岸清掃（47 名）、奈佐の浜シンポジウムへの参加	
6	平成 24 年 10 月 18 日	NPO 等との意見交換会の開催	
7	平成 24 年 10 月 30 日	海岸漂着物対策検討会（第 2 回）の開催	準備会（第 3 回） 平成 24 年 7 月 23 日 準備会（第 4 回） 平成 24 年 10 月 18 日
8	平成 24 年 11 月 12 日 平成 25 年 1 月 22 日	国（環境省）への提言活動	
9	平成 25 年 3 月 22 日	海岸漂着物対策検討会（第 3 回）の開催	準備会（第 5 回） 平成 25 年 2 月 28 日

三県一市・海岸漂着物対策検討会現地研修会等の概要

6月9日、鳥羽市答志島において検討会現地研修会を開催し、海岸漂着物の現状を現地（奈佐の浜）で確認し問題意識の共有を図るとともに、海岸清掃活動に参加し環境団体との連携促進を目的に「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」の実施する「奈佐の浜海岸清掃」に参加しました。

また、海の博物館（鳥羽市浦村町）において、海岸漂着物に関する講演がありました。

9月8日、第2回奈佐の浜海岸清掃に参加しました。

また、鳥羽小学校で開催された「奈佐の浜シンポジウム」に参加し、環境団体の取組状況について情報共有を図りました。

1 日時 平成24年6月9日（土） 10:40～11:45（清掃のみ）

参加者 300名（主催者発表）

ごみ回収量：1,360kg（可燃（プラごみ含む））

清掃活動参加者内訳

	愛知県	岐阜県	三重県	名古屋市	その他※	計
一般	50	46	30	愛知県に含む	130	256
行政	3	5	16	2	18	44
計	53	51	46	2	148	300

※その他 一般：当日参加者等、行政：三県一市検討会以外

2 日時 平成24年9月8日（土） 10:40～11:50（清掃のみ）

参加者 400名（主催者発表、うち47名は、三県一市の行政関係者）

ごみ回収量：2,380kg（可燃（プラごみ含む））



6/9 清掃活動の様子



9/8 奈佐の浜シンポジウムの様子

NPO 等との意見交換会概要

海岸漂着物対策を推進するには、NPO等の協力による清掃活動も重要であることから、連携強化及び今後の活動等について確認するため、県境を越えて連携し奈佐の浜（鳥羽市答志島）等での清掃活動に取り組む「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」との意見交換会を開催しました。

- 1 日時 平成 24 年 10 月 18 日（木） 15:00～17:00
- 2 場所 愛知県自治センター 4 階 大会議室
- 3 参加者
NPO 10 団体 11 人
三県一市 19 人（愛知県 5 人、岐阜県 3 人、三重県 5 人、名古屋市 6 人）
- 4 主な内容
 - ・各団体の取組内容の紹介
 - ・清掃活動への参加のお礼
 - ・今後の清掃活動への協力依頼
 - ・意見交換
- 4 NPOからの主な意見
 - ・上・中・下流のつながりが大切。流域全体でごみのことを考える必要がある。
 - ・ごみが誰の責任でどのように処理されているのか、市民も意識を高くしなければいけない。
 - ・行政だけでできない部分は、もっと NPO を有効に活用して欲しい。
 - ・これまでの壁を越え、できることから一緒に取組を進めたい。
 - ・このような意見交換の場を、これから年 2 回程度開催してもらいたい。



意見交換会（全景）



取組状況の紹介の様子

海岸漂着物対策の推進に関する国への提言書

平成25年1月

伊勢湾総合対策協議会
(三重県、岐阜県、愛知県、名古屋市)

海岸漂着物対策の推進に関する国への提言にあたって

伊勢湾総合対策協議会

伊勢湾総合対策協議会では、岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市の三県一市による広域的な連携のもと、伊勢湾の総合的な利用と保全に係る施策を推進しています。

海岸漂着物については、伊勢湾における海岸景観や自然環境への影響から、その対策が重要となっています。

このため、美しく健全で活力ある伊勢湾の再生に向け、海岸漂着物処理推進法に基づき別紙の措置を早急に講じられるよう提言します。

平成 25 年 1 月

伊勢湾総合対策協議会 代表委員 三重県知事 鈴木 英敬

委員 岐阜県知事 古田 肇

委員 愛知県知事 大村 秀章

委員 名古屋市長 河村 たかし

海岸漂着物対策の推進

伊勢湾は広い流域面積を有する閉鎖性の内湾であることから、流域の河川を経由して流出したごみが湾内の海岸、特に湾口部の離島などに大量に漂着するなど、本来の美しい海岸景観だけでなく、自然環境や漁業にも影響を及ぼしています。

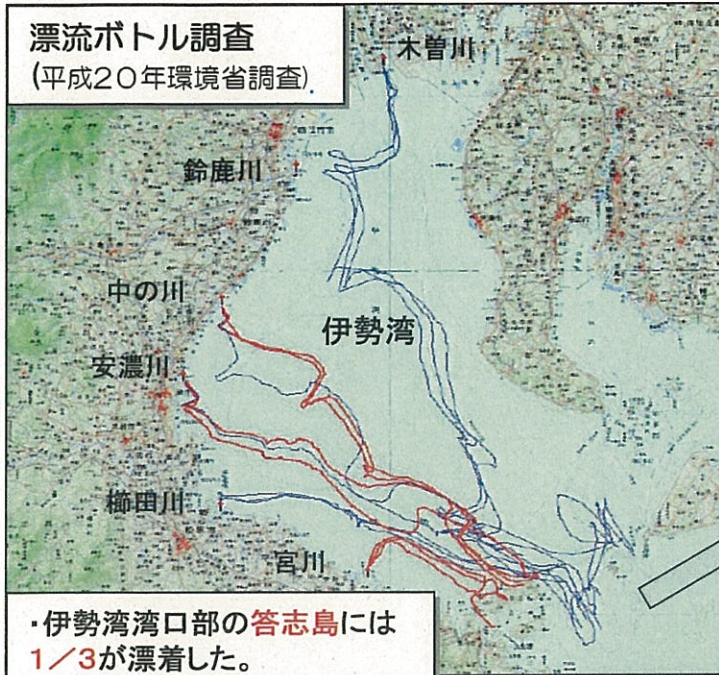
その漂着量は年に1万トンを超えると推定されており、海岸管理者やボランティア団体が海岸の清掃を行っても、短期間でまた元に戻る状況です。

そのため、伊勢湾流域圏の東海三県一市（岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市）は、伊勢湾総合対策協議会に海岸漂着物対策検討会を設置して、広域的な連携・協力による効率的な発生抑制対策等を検討しています。

しかし、地域グリーンニューディール基金が平成23年度で終了し、各県市とも海岸漂着物対策に要する財源確保が課題であることから、次の事項について早急に対策を講じられるよう提言します。

- 1 海岸管理者等が実施する海岸漂着物の回収・処理に要する費用について恒常的かつ必要な財政上の措置を講ずること。
- 2 海岸漂着物の発生抑制対策として、流域圏の河川において実施するごみの清掃や散乱防止対策等に要する費用について財政上の措置を講ずること。
- 3 効率的な海岸漂着物対策のため、複数の自治体が共同して設置した検討会等の運営等に要する費用について財政上の措置を講ずること。

■ 大量に堆積する海岸漂着物



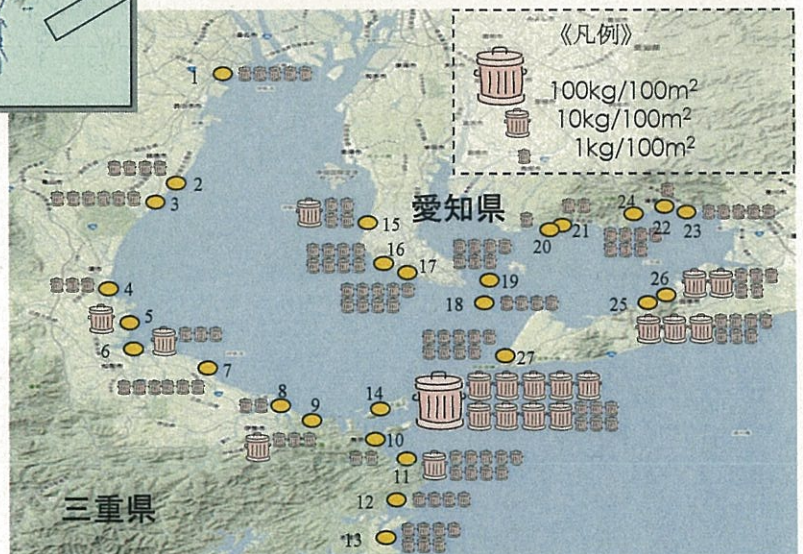
- ・伊勢湾湾口部の答志島には1/3が漂着した。
- ・伊勢湾内には18本中10本が漂着した。



奈佐の浜(鳥羽市答志島)の海岸漂着物

答志島等でのごみ回収量(単位 kg)
(平成24年環境省実施)

島名	人工ごみ	流木・灌木
答志島	900	21,188
牛島	1,380	23,658
浮島	720	12,964
合計	3,000	57,810



海岸漂着物の現況を把握するための現地調査をもとに作成
調査時期: 愛知県(H22.11~12)、三重県(H21.11~H22.10)



■ 海岸漂着物の回収・処理の取組

「22世紀奈佐の浜プロジェクト」による清掃活動

実施日	参加者数	海岸漂着物回収量
H24.6.9	約300名	可燃ごみ1,360kg 他
H24.9.8	約400名	可燃ごみ2,380kg 他



岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市のボランティア団体及び三県一市の職員が参加

■ 地域グリーンニューデール基金の概要

	予算額	補助率	対象海岸
地域グリーンニューデール基金 (海岸漂着物)	55億円 (平成21年度～ 平成23年度)	10/10	海岸漂着物対策を 重点的に推進する区域

《参考資料》 平成24年3月11日開催のシンポジウム資料

伊勢湾の海岸漂着物対策を流域の東海三県一市が連携して推進するため、平成24年3月11日、名古屋市内でシンポジウムを開催しました。
シンポジウムでは、海岸漂着物の現状の紹介や環境団体との意見交換を行ったほか、各知事・市長から次のメッセージが寄せられました。

三県一市知事・市長からのメッセージ



愛知県
知事
大村 秀章

愛知県では、昨年8月に、海岸漂着物対策推進地域計画を策定し、海岸管理者等、市町村、民間団体等が連携・協力して、海岸漂着物対策を行っています。海岸漂着物の多くは、河川等から流入し、県域を越えて移動するため、三県一市による連携を強化し、広域的な発生抑制対策に取り組んでいきたいと考えています。



岐阜県
知事
古田 肇

岐阜県では、森川海を一体とした自然環境保全に取り組む「清流の国ぎふづくり」を推進しています。その中で、上下流域の皆さんによる間伐や海岸清掃活動等を通じ、海の環境は森や川を守ることから始まることを御理解いただいています。本年9月に開催される「ぎふ清流国体・清流大会」でも、皆さんと共に伊勢湾再生に向けた「清流の国ぎふづくり」をアピールしていきます。



名古屋市
市長
河村 たかし

私たちの生活の場である都市は、水によって森、川、海とつながっています。海岸漂着物について考えることを通じて、伊勢湾流域圏のたくさんの方が連携・協力していくことは、健全な水循環や生物多様性保全の観点からも重要なことです。豊かな伊勢湾を未来へ引き継いでいくために、三県一市で共に考え、取り組んでいきましょう。



三重県
知事
鈴木 英敬

三重県の志島をはじめとして、海岸漂着物の対策に多くの方が苦勞されています。今、こうした地域の現状を伊勢湾流域圏全体で共有し、海岸漂着物を私たち一人ひとりの問題と捉えて、その思いを行動に移すことが求められています。皆さん、ぜひ一緒に、伊勢湾流域での活動を盛り上げていきましょう。